

まえがき

この本を手にしていただき心から感謝いたします。

突然ですが、人生つてなんでしょうか？

「旅」とか「舞台」とか言いますよね。

なんで生まれてきたのかな？ と漠然と考えるときも。

特に身体が不自由になっちゃったとき、仕事が思うようにいかないとき、何もかも悪い状態になったとき、なんでこんな目に遭うのだろう、と思ったことは皆さんの人生でも何度かあったのではないかと思います。

徳川家康の名言。

「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し。急ぐべからず。」

これを読むと、人は常に何かを背負って死ぬまで歩きつづけているように感じます。

次に、死について考えたことはありますか？

誰もが一度は考えたことがあるのではないかと思います。

幼児でも知能が発達していたら、葬式に参加すると違和感を覚えるかもしれません。

私の場合、記憶を遡ると中学生時代、水難事故により20歳で亡くなつたといふこの葬式に参加して、初めて死というものを実感しました。

そして両親の祖父母に代表されるように、歳を重ねた親類が亡くなると「人はいつかは死ぬ」ことをさらに実感しました。

死ぬパターンは大きく3つに分かれると思います。

- (1) 事故などで予兆なく突然死ぬ
- (2) 病や老衰で生命力が衰えて死ぬ
- (3) 余命宣告を受けて死ぬ

病にもさまざまなケースがあります。

日本人の3大死因は老衰を除き、悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患です。

この本では、脳梗塞、がんを中心に、身内に起きた病への対応を振り返り、その経験を通じて人生への考察と情報提供につなげていきます。

表現に関しては、情報保護の関係で一部変更しております。

また、がんに対するステージ（病期）は本来ローマ数字で表記しますが、ここでは2、3という数字とします。

あらかじめご容赦ください。

この本は、GalaxyBooks株式会社の栢木^{かやのき}さんのフォローがあつたから完成させることができました。改めて御礼申し上げます。

また、私の両親を献身的に介護し、その後過酷な経験をしてまだ闘病中のわが家内（妻）に対して感謝と敬意を捧げます。